

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 菅生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

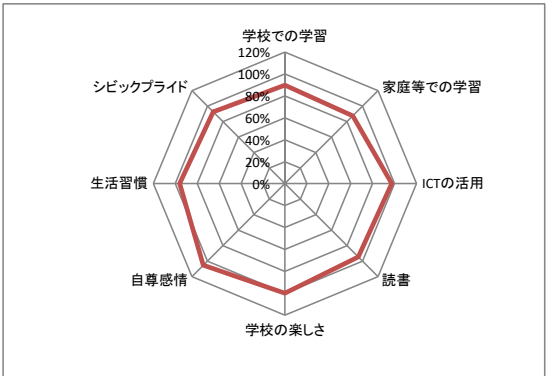
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「思考力・判断力・表現力」の「話すこと・聞くこと」に関する問題の平均正答率はそれ以外の領域の正答率に比べて高く、授業で学習したこととの定着が結果に現れていると言える。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	インタビューをする際にどんなことに気を付けるか、結果をどのようにまとめていくかを考える問題	
	努力が必要な問題	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いになおす問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	選択式の問題については、ほかの問題に比べて平均正答率が高くなっていたが、データを活用する問題や、記述形式で答える問題については正答率が低く、苦手意識をもっている生徒が多いことがうかがえる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	グラフを基にして考え、値を読み取る問題	
	努力が必要な問題	図形の証明問題（記述式）	
英語	全体的な傾向や特徴など	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択するといったリスニング形式の問題は、ほかの問題に比べて平均正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	英文や会話文を聞いて、問いに答えるリスニング形式の問題	
	努力が必要な問題	英文が成り立つよう適切な語句を答える問題、英作文の問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・自分にはよいところがある、人の役に立ちたいと答えた生徒は全国平均を大きく上回っており、自己肯定感や他者を思いやる心が育っている生徒が多いと考えられる。 ・授業時間以外に読書をする時間が全国平均と同じぐらいではあるが、読書が好きと答えた生徒は全国平均を下回った。 ・家庭学習の時間が全国平均を下回っているため、家庭学習の習慣を身につけるための取組が必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 単元の最初に学習課題を設定し、自ら進んで課題解決に向かう姿勢を養う。
- ICT機器を活用して、協同的に学ぶ場面を多く設定する。その際、自分の考えや他者から聞いてわかったことなどを整理する時間を設ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習用のプリントやタブレットの学習ドリルを活用し、長期休みや週末等の課題とし、評価・点検する。
- 定期テスト前に学習計画表を作成し点検・指導することで見通しをもって学習ができるようにする。